

南アルプス市立八田小学校 前期自己評価書

令和3年8月27日(金)

【小中一貫校八田小中学校の教育】

1. 教育目標 「ふるさとの未来(あす)を創造する児童生徒の育成」
～知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成を目指して～
2. 『八田 Children first』
「明るい 伸びゆく 夢みる」児童から「未来を展く 理想は高く 世界をめざす」生徒へ
小中一貫校八田小中学校の教育は、【八田 Children first】をコンセプトに『1. 学習をつなぐ
2. 児童生徒をつなぐ 3. 教職員をつなぐ 4. 学校・家庭・地域をつなぐ』の4つの『つなぐプロジェクト』を柱とし、義務教育9年間で「途切れのない連続させた教育」となるよう取り組みます。
3. めざす児童生徒像
 - ふるさとを大切に思う児童生徒
 - 変化の激しい先行き不透明な社会に対応できる主体性のある児童生徒
 - 自律性・豊かな人間性を持ち、たくましく生きていくための健康、体力を持った児童生徒

【学校教育目標】

「豊かな心を持ち かしこく たくましい子どもの育成」

【めざす子ども像】

- 〔なかよく〕 思いやりの心を持ち 礼儀正しく行動する子ども
- 〔かしこく〕 自ら学び 友と対話し 深く考える子ども
- 〔たくましく〕 よく食べ よく運動し 命を大切にする子ども

【めざす学校像】

- (1) 仲よく助け合い、笑顔の集う学校
- (2) 学ぶ楽しさにあふれる学校
- (3) 整然とした、美しい学校
- (4) 安全で安心な居場所としての学校
- (5) ふるさと八田を誇れる学校

【めざす教師像】

- 子どもとのふれあいを大切にし、子どもとともに成長する教師
- 自己を高め、創意工夫して実践する教師
- 学ぶ姿勢をもち、互いに磨き合う教師
- 目標に向かって協働し合う教師
- 心身ともに健康で、児童・保護者・地域・同僚から信頼される教師

【特色ある教育活動】

- (1) 小笠原流礼法・立腰教育 心と体のバランスのとれた子ども
- (2) ふるさと教育 文化財課との連携や地域の人材を活用し、ふるさと八田を愛し、ふるさと八田に誇りをもつ子ども
- (3) 川柳 言葉を大切にし、感性を豊かにする子ども
- (4) 学習発表会(清流祭) 発表活動を通して心をひとつにし、互いの絆を深めようとする子ども

【本年度の努力点】

- (1) 義務教育9年間を見通した教育課程をもとに、小中一貫教育を推進する。
- (2) 学びの質を高める授業づくりを推進し、学習意欲の向上と確かな学力の育成を図る。
- (3) 豊かな心を育成する道徳教育の充実を図る。
- (4) いじめを許さない集団づくりと不登校児童が生じない環境づくりに努める。
- (5) 命、体力、健康・安全、食育に関する指導の充実を努める。
- (6) 指導と支援にもとづく特別支援教育を推進し、その充実を図る。

I 全体評価（割合を出す際の処理の関係で、合計が100%にならない項があります。）

一昨年度南アルプス市より「小中一貫校八田小中学校」に制定され、本年度若干の修正をしたが、例年どおり中学校と同一のものとした。昨年度来の新型コロナウイルス感染症による影響は依然としてあるものの、徐々に平常を取り戻し、例年とは違う形になったが各種行事や学習もほぼ予定どおり実施することができている。まだまだ厳しい状況ではあるが「コロナでもできることを見つけよう」と、対策を行いながら、工夫して日々の教育活動に取り組んでいる。

1. 教職員の自己評価 27名回答（1名：4～5ポイントに相当）（資料1 資料1-1を参照）

(1) 前期の結果（資料1・1-2参照）

①A・B（肯定的評価）の合計が100%の項目 6項目

1：児童生徒は楽しく学校生活を送っていると思いますか。

3：児童生徒の安全が確保されるように防災教育・防犯教育等に努めていますか。

9：児童生徒とコミュニケーションをとるなど、児童生徒理解に努めていますか。

10：自分からあいさつが行えるよう、指導していますか。（新項目）

11：いじめなどの諸問題に対して、「未然防止、早期発見、早期対応」を心掛け、楽しい学級・学年・学校づくりに努めていますか。

13：外部関係機関と連携し、児童生徒の健全育成に努めていますか。（特別支援教育も含める。）

②A・B（肯定的評価）の合計が90%未満の項目 4項目

2：児童・生徒は小中一貫校の教育目標「ふるさとの未来（あす）を創造する児童生徒の育成」の達成に近づくため、各自の目標を持って学校生活を送っていると思いますか。（74%）

4：小中一貫校（分離型）として、児童生徒の交流や、職員の交流を積極的に行っていますか。（78%）

5：ライフ・ワークバランスを意識した業務改善を行っていますか。（66%）

8：GIGA スクール構想に対応した、リテラシー教育、モラル教育を行っていますか。（88%）（新項目）

③D（否定的評価）がついた項目 2項目

8：GIGA スクール構想に対応した、リテラシー教育、モラル教育を行っていますか。

12：保護者（家庭）と密に情報交換し、指導に取り組んでいますか。

④昨年度後期との比較

昨年度後期と比較（資料1-1参照）しても、肯定的な評価の割合が高く、全体的な傾向としてほぼ満足できる結果となっている。そんな中ではあるが「1：児童生徒は楽しく学校生活」の項目はA評価が59%から73%に、「9：児童生徒とコミュニケーション」の項目はA評価が69%から89%に上昇している。ただ、「5：ライフ・ワークバランス」の項目はA評価が88%から66%と下降している。

(2) 自由記述（抜粋）

- ・挨拶ができるようになってほしい。
- ・規律をしっかり守り、そのうえで学校生活を楽しめる児童が増えた。
- ・目標（小中一貫）について、もっと明確に示すと良いと思う。
- ・今年度はじまった小中一貫推進委員会で具体的にしていきたい。
- ・英語や音楽、外国語（英語）では、高学年が中学校の先生から指導していただける機会がありありがたいです。
- ・早く帰宅することを心掛けたい。平均して40時間前後は時間外勤務になってしまう。
- ・働き方改革等ありますが、実際の業務内容が減ったり効率が良くなったりしているわけではないので、なかなか難しいです。自分の要領が悪いこともあると思いますが…。
- ・手段や方法を共有しながら授業づくりに努めているが、育成する資質能力についてもさらに再考しながら共有していく必要がある。
- ・自主学习などの家庭学習が身に付いている。
- ・児童の負担、家庭環境を考慮しながら、量より質を高めたい。

- ・スマホや一般的な情報モラル教育しか指導をしてきていない状況で一人一台端末が始まりました。今後、持ち帰り学習が始まったときに、して良いこと悪いことのルールづくり等が必要になってくると思います。
(持ち帰ったタブレットがどのように活用されるかは、児童のモラルによるため)
- ・研究不足で、GIGA スクール構想に対応できていないと思います。
- ・挨拶が行えるように指導しているが、なかなか成果を感じられない。
- ・はきはきとした声であいさつをすることを意識させたい。
- ・自分からあいさつしてくる子どもが増えてきていると思う。
- ・児童会での取り組みが効果的である。(あいさつ)
- ・朝玄関であいさつをしています。子どもたちからあいさつがなかなか返ってきません。また、廊下でお客様と会った時にも、あいさつできない子どもが多いです。自分からあいさつをおこなうことは、普段から指導してもなかなか難しいのかなと感じています。
- ・「いじめは許さない」ことを日ごろから伝えた。特に、相手が嫌がれば「いじめだよ」と伝えた。
- ・情報発信の手段として、今年度はホームページを積極的に活用している。
- ・登下校時において、見守る会の方には細かい配慮をしていただき本当に感謝している。
- ・コロナの中、可能な限り行事の充実に努めてきたと思う。
- ・2学期はもう少し合唱に取り組めるようにしていきたい。
- ・コロナ禍ではあるが、学校全体・学年等に依りて十分に工夫して行事を行えていると思う。
- ・朝の1分間の立腰タイムは教師自身も落ちついた心で過ごすことができていると思います。
- ・児童会で取り組んでくれたおかげで、無言清掃が全校的にできていて、良いことだと思う。表面上でなく、物事の意義を考えさせながら指導をしてきた。今後も継続していきたい。
- ・日常の生活の中で上級生が下級生の面倒をよく見ている。
- ・年々、子どもたちが落ち着いて学習や生活ができるようになってきていると感じます。先生方が日々子どもたちと向き合い、丁寧にご指導くださっているからだと思います。

2. 学校生活に関する児童アンケート 310名回答 (約3名:1ポイントの相当)

(1) 前期の結果 (資料2・2-1参照)

① A・B (肯定的評価) の合計が90%以上の項目

- 1: 学校が楽しいですか (93%)
- 2: 学校の授業がわかりますか (95%)
- 5: 宿題を忘れずにしてきますか (91%)
- 8: いろいろ話せる、友だちがいますか (93%)
- 9: 相手の気持ちを考えて、行動していますか (94%)
- 11: 先生や友だちの話をしっかり聞いていますか (98%)
- 12: 時間を守って行動していますか (96%)
- 13: 学校のきまりを守っていますか (96%)
- 14: 給食当番やそうじをしっかりしていますか (99%)
- 16: 朝ごはんを食べて、登校していますか (94%)

② A・B (肯定的評価) の合計が80%未満の項目 (6項目)

- 3: 授業中、質問や意見を言いますか (66%)
- 4: 背筋を伸ばし、良い姿勢で学習をしていますか (74%)
- 6: 宿題のほかにも家庭学習 (塾や家庭教師をのぞく) をしていますか (64%)
- 7: 家で、本を読みますか (宿題をのぞく) (65%)
- 10: 困ったことや心配なことがあったら、先生に言いますか (69%)
- 18: 家の人と学校の話をしてもらいますか (78%)

③ 昨年度との比較

昨年度後期と比較 (資料2-2参照) すると、全体的な傾向として大きな違いはなく、ほぼ同じような傾向となっている。肯定的評価の特に高いものは「11:話をしっかり聞く」「12:時間を守る」「13:学

校のきまりを守る」「14：給食当番やそうじ」など基本的な生活習慣に関する項目である。肯定的評価が低い傾向にあるものは、「3：質問や意見」「6：家庭学習」「7：読書」「10：困ったことや心配なことがあったら、先生に言いますか」がある。おおむね満足できる結果ではあるが、肯定的評価が低い項目が固定化しないような対策が必要になってくる。

II まとめ(成果と課題)

「教職員自己評価」「児童生徒アンケート」とも肯定的評価の割合が高く、おおむね満足できる状況にあると言える。ただ、そのことに満足することなく、そこから見えてくる課題や改善点を探っていくことがより良い「八田小学校」を作り上げていくうえで大事なことだと考える。

昨年来、新型コロナウイルス感染症の影響で、依然として児童にとっても保護者にとっても当然教職員にとっても様々な制約のなかでの学校生活となっている。コロナのことも前向きにとらえ、工夫を凝らしながらこの危機を乗り切りたいと考えている。「教職員自己評価」「児童アンケート」の結果をもとに改善の糸口を見つけ出していきたい。

(1) 家庭学習(学力向上)について

家庭学習の肯定的評価の推移は、児童(68%→61%→64%)となっている。「計画的な家庭学習の手立てをしていますか」の問いに対して教職員の肯定的評価は、91%→87%→96%となっている。児童生徒の60%台の肯定的評価はそれほど高いとは言えないかもしれないが、宿題以外の学習に取り組んでいる割合とするとまずまずなのかもしれない。また、「家庭学習の重要性」を知らせたり、小中で連携して同時期に「パワーアップ週間」を設定したりする対応も実施している。ただ、毎年肯定的評価の割合が同じ傾向にあるということを考えると、C・D評価をつけた児童生徒へのきめ細やかなサポートが必要である。「家庭学習」を広義にとらえ、児童生徒の興味関心に基く学習課題も可とするなど柔軟な対応を心掛けていきたい。そうする中で、学びに対する積極的な姿勢を育て、学習の習慣化を図り、学力の向上へとつなげていきたい。

(2) コミュニケーション(あいさつ)について

児童生徒「自分からあいさつをしていますか」の肯定的評価は91%→88%→90%(A:56% B:40%)。昨年度後期の保護者のそれは、80%(A:35% B:45%)となっている。また、今年度新たに加えた自己評価「自分からあいさつが行えるよう指導していますか」は100%(A:59%、B:41%)となっている。

児童会活動とタイアップすることで、「あいさつ運動」が活発になったという教職員評価もあり、年々手ごたえを感じつつある。ただ、なかなか大きな変化(数字的)は見られず、地道な取り組みを続けていく必要がある。また、あいさつに限らず対児童生徒あるいは児童生徒同士の日ごろのコミュニケーションを大事にしていくことが、より良い学校生活の実現につながると考える。

児童生徒・・・「8：いろいろ話せる友達(93%)」「10：先生に相談(69%)」

教職員・・・「9：コミュニケーションをとるなど、児童生徒理解(100%)」

(3) GIGAについて

GIGA スクール構想に伴い、児童生徒一人一台端末が整備され、年度初めから活用が開始された。子どもたちは、多少の悪戦苦闘はあったもののさすが現代っ子、今では1年生もある程度使いこなしている。端末を使うことが目的化することなく「文房具のひとつ」という位置づけで学習の中に生かしていきたいと考えている。

「リテラシー教育・モラル教育」に関しての自己評価は、A:52% B:36% C:8% D:4%となっている。今までも、取り組んできた課題ではあるが、十分な対応ができないまま「一人一台」となり戸惑いがある。2学期以降、持ち帰り学習も予定されていることから、保護者と協力しながらさらにリテラシー教育・モラル教育に取り組んでいく必要がある。最先端のツールの良さと危険性を併せて学習し、上手に使いこなしていく力こそが、今の子ども達には求められている。児童生徒、保護者、教職員で力を合わせ八田地区にあった解決策・利用方法を見出していきたい。

(4) ライフ・ワーク バランスについては、

ライフ・ワークバランスに関する自己評価（肯定的評価）は、81%→88%→66%となっていて、今年度は大きさがった。教職員に限ったことではないが、これは大きな社会的課題である。GIGA スクール構想もしかり、学校が抱える仕事量は年々増え、削減される状況にはない。そんな中で、教職員はライフとワークのバランスに苦慮している。教職員自身の意識改革も大事ではあるが、全体としてあるいは組織として改善を目指していくことが、結果的には「児童生徒のため」につながっていくと考えられる。様々な方面と協力しながら、改善を目指していきたい。